

足利東ロータリークラブ卓話資料

これからの教育を考える

—2020年度からの教育大改革(大学入試改革・学習指導要領改革)を踏まえて—

2018年9月25日(火)

18時30分～

ニューミヤコホテル足利本館

開倫塾

塾長 林明夫

<はじめに、ひとこと>

Q 1 : 教育の目的は何ですか。

A : (1) 「よく生きる」こと

(2) 学力が身に着くと・・・

- ① 「多様な選択肢のある人生」を歩むことができる
- ② 「正常に機能する社会の形成」に貢献することができる

(3) 私の好きなことば

- ① 「教育ある人とは、(一生) 学び続ける人」(ドラッカー先生)
- ② 「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

Q 2 : これからの社会はどのような社会ですか。これからの社会で求められる能力は何ですか。

A : (1) 「知識基盤社会」 … 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(2) 「グローバル化社会」 … 「多様な集団で行動する能力」

(3) 「課題山積社会」 … 「自律的に行動する能力」

Q 3 : このような能力の前提となる能力は何ですか。

A : 3つあります。

(1) 「自覚を持って学ぶ」こと

- ① 目的 (最終到達点、ゴール)、高い志
- ② 目的に至る目標 (一里塚、マイルストーン)
- ③ 自己責任、自助努力、自分の未来は自分で切り開く

(2) 「学び方を身に着けている」こと

- ① 「学び方を学ぶ能力」
- * (Learning to Learn) を身に着けていること

- ② 「学習の3段階理論」
- * (理解・定着・応用)

③ 「練習は不可能を可能にする」

(3) 「読解力を身に着けている」こと

- ① 意味がよくわからないことばがあったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書で調べる
 - ・「意味調べノート」「カード」の活用
 - ・「ことばは力」「語彙力」
- ② 新聞を毎日なめるように読み続ける
 - ・「自分で考える力、批判的思考 (critical thinking クリティカルシンキング) 能力」
 - ・「スクラップブック」
 - ・「NIE (Newspaper In Education、新聞を教育へ)」
- ③ 読書による「思慮深さ」
 - ・本は、じっくりと腰を落ち着けて何回も読む
 - ・大切な本、古典は6回読む
 - ・「書き抜き読書ノート」

Q 4 : 「2020年度からの教育大改革」とは何ですか。

A : (1) 「大学入試改革」

- ・英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）の同一配点

(2) 「学習指導要領改革」

- ・学力とは「主体的に学ぶ力」

(3) 「授業改革」

- ・「反転授業」「アクティブラーニング」

<最後に、ひとこと>

Q 5 : 足利市の教育について、ひとことどうぞ。

A : (1) 足利市の教育のすばらしさ

①日本最古の学校「足利学校」

- *リーダーシップの古典「貞観政要」は足利学校で改版

②「5S」と「論語」

- *「足利5S学校」は世界の産業教育のお手本

③日本最先端の小学校・中学校の英語教育

- *足利市英語教育推進プロジェクト会議

④留学生からの評価が一番高い足利大学

(2) 足利市の教育の当面の課題

①「足利高校・足利女子高校併合」後、どうするのか

- *どのような「単位制高校」にするのか

②「外国人就業者への教育」

- *ダイバーシティ

③「社会人のIT・外国語能力強化教育」

- *スマートシティ、実現に向けて

(3) これからの足利市の教育のあるべき姿

①「学校教育日本一の街」

- *教師教育日本一の街

- ・学校での勉強は、すべて、一生役立つ。学校の教科書や授業ノートは、一生の宝物。決して処分しないで、生涯を通して何回でも「学び直し」を

②「足利市に住むすべての外国人への教育日本一の街」

- *日本語教師教育日本一の街

③「高等教育、継続教育、高齢者教育日本一の街」

- *中小企業経営者教育日本一の街

- *高度プロフェッショナル人材教育日本一の街

- *デジタルサイエンティスト教育日本一の街

- ・参考になるのは、スマートシティを目指す会津若松市、会津大学、アクセンチュア一福島イノベーションセンター

④「街角図書館」（私設図書館）

- ・参考になるのは、フィンランドのあちこちの街角にある私設の週末図書館

ご清聴を感謝いたします。

OECDから見る日本の教育政策

— OECD 日本の教育政策に関する報告書記者会見で考える —

開倫塾

塾長 林明夫

Q : OECD(経済協力開発機構)から、日本の教育政策に関する報告書が出されたようですね。

A : はい。日本記者クラブで、7月27日(金)に、OECD東京センターの主催で記者会見が開かれ、"Education Policy in Japan : Building Bridges Towards 2030"が発表されました。翌7月28日(土)には、学術総合センター 2F の一ツ橋講堂で、文部科学省・OECD 共催で「OECD から見た日本の教育政策」と題する、第20回 OECD/JAPAN セミナーが開催されました。

Q : 今回のOECDの日本へのアドバイスは何ですか。

A : 3つあります。

- (1) 第一は、2030年に求められる資質の向上です。新学習指導要領(2020年～2022年導入予定)で改訂される事項の実施を最優先することを、OECDはアドバイスしています。
- (2) この度の10年ぶりの指導要領の改定では、21世紀に相応しい資質や能力の育成を目指した新しい指導および学習の必要性を認識。知識に加え、問題解決能力や創造力、優れた学習習慣といった教科横断的な技能育成のための能動的な学習(アクティブ・ラーニング)も含まれます。
- (3) この実現のためには、先生方にアクティブ・ラーニングの研修を行い、能力強化を図ることが急務と、OECDはアドバイスしています。

Q : 第二のアドバイスは何ですか。

A : (1) 学校と地域の連携強化です。

- (2) ①先生方が熟練した能力を持ち総合的に生徒のケア、②生徒が積極的に身を入れて学習、③保護者が教育を重視し、学習塾など学校外の付加的な学習に支出、④地域が教育を支援するなど独特なモデルが、日本の教育制度の全側面を基盤とし、一体となって機能。
- (3) ただし、このシステムの代償として、先生方の極度の長時間勤務と高度な責任があるので、運営上の慣行を変更し、先生方の業務負担を緩和する必要があると、OECDはアドバイスしています。

Q : 第三のアドバイスは何ですか。

A : (1) 学びなおし、リカレント教育です。

- (2) 成人力調査を見ると、日本の生涯教育への参加率は低く、日本における成人の学ぶ意欲は、調査参加国中で最下位に近いことがわかります。その原因は、①成人の時間的および経

済的な制限、②成人に対する教育内容が労働市場との関連性に欠けること、③関心または動機の欠如にあります。

(3) そこで、日本の生涯学習率を高めるためには、①成人のための学習が労働市場のニーズに合ったものであること、②失業者または積極的に労働市場にかかわっていない者の就職支援につながることを、そして、③仕事をしていて学ぶ時間が限られている労働者が参加することができるようにすることを、OECD はアドバイスしています。

Q : このOECDの報告書が、日本に一番アドバイスしたいことは何だと思えますか。

A : (1) 2020 年の学習指導要領改訂は、将来に適応できる若い世代を育成するための意欲的な試みと、OECD は高く評価。

(2) しかし、2018 年に就学する子どもたちは、2030 年に成人期に入り、現時点では予測困難な壁に直面することになります。そこで、学校は、いまだ創出されていない仕事や発明されていない技術、そして、今日予期されていない問題に対応できるよう、生徒たちを育成していかなければなりません。

(3) そこで求められるのは、①学びに向かう力・人間性の育成、②知識と専門性の指導、③思考力・判断力・表現力です。これが、OECD のアドバイスです。

Q : ところで、OECDの報告書(アドバイス)は参考になるのですか。

A : (1) OECD は、先進諸国のみならず新興諸国の経済・社会・文化的な発展を願い設立された国際連合と並ぶ国際機関・世界最大の公的シンクタンクです。

(2) 特に、2000 年から 3 年ごとに行われる PISA 調査の結果分析に基づく各国の教育政策報告書は、各国の教育政策の策定に大きな影響力を持っています。

(3) 教育政策だけでなく、コーポレート・ガバナンス、財政、産業、エネルギー、環境、科学技術、AI・IoT・ICT、農業、公務員制度、移民、開発、能力開発、雇用、大学、格差是正、医療、福祉、中小企業、社会政策など先進諸国が直面する数多くの課題についての調査・研究を国際レベルで行い、その成果に基づき各国のピュアレビューを行い、報告書の形でまとめ上げ、政策提言として発表しています。

Q : もう一度お聞きします。OECDの報告書は役に立つのですか。

A : (1) 特に、OECD や報告書の価値をよく理解し、どのように役立てたらよいかを真剣に考え、素直な気持ちで謙虚に報告書の全ページを熟読玩味すれば、必ず役に立ちます。

(2) 国や自治体、企業や非営利組織で、その課題を担当する皆様の最高レベルの参考書、アドバイス集と確信します。

(3) 時々、報告書の執筆者が今回のように来日し、OECD 東京センターが主催する記者会見やセミナーに登壇することもあります。毎年 5 月の最終週には、サミットの直前の OECD 閣僚協議会と重ねて、パリの OECD 本部で OECD FORUM が開催されます。OECD の HP を注意深く検索し続ければ、OECD 関係の数多くの国際会議への参加の機会を得ることができます。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 今月も、先生方が一度読み始めれば手から離れなくなるほど参考になる本を、何冊かご紹介いたします。

(1) 一冊目は、マイケル・E・ポーター著「新版、競争戦略論 I、II」ダイヤモンド社 2018 年 7 月 18 日刊です。ポーター先生の最新刊です。極めて有益です。

(2) 二冊目は、フレデリック・ラルー著「ティール（進化する）組織」英治出版 2018 年 1 月 31 日刊です。英語の書名は、「Reinventing Organizations : A Guide to Creating Organizations Inspired by the Next Stage of Human Consciousness」です。「進化する組織づくり」を目指す基本テキストです。

(3) 三冊目は、KPMG ジャパン編著「社会が選ぶ企業」日本経済新聞出版社 2018 年 2 月 23 日刊です。目指すべき企業像が明確に示されています。

(4) 四冊目は、ブレット・キング著「拡張の世紀、テクノロジーによる破壊と創造」東洋経済新報社 2018 年 4 月 12 日刊です。劇的に変化するテクノロジーの未来をどう先取りし、学習塾に活かすかを考えるのに不可欠な一冊です。

*この四冊は、すべて、学習塾の経営にぴったり合うと確信します。

(5) 五冊目は、森信三先生の古典的名著「修身教授録、現代に甦る人間学の要諦」致知出版社 1989 年 3 月 31 日刊です。森先生の本著を読み、ペスタロッチ先生にご興味を持ったなら、長尾十三二・福田弘共著「ペスタロッチ」人と思想、センチュリーブックス、清水書院 2014 年 9 月 10 日刊と、ペスタロッチ著「隠者の夕暮、シュタンツだより」岩波文庫、岩波書店 1993 年 12 月 16 日刊をぜひご一読ください。SDGs が叫ばれる今こそ、ペスタロッチと考えます。

*尚、OECD の報告書は、OECD の HP で、そのサマリーがご覧になれます。代表的な報告書は、日本語訳され、明石書店から刊行されています。是非ご覧ください。

(6) 最後に、これからスペイン語を学ぼうとする方、今までにスペイン語を習ったことのある方に、親切この上ない、学習者の立場に立った最新のスペイン語学習の本格的なテキストをご紹介します。菅原昭江著「極める！スペイン語の基本ドリル」白水社 2018 年 7 月 10 日刊です。同著「極める！スペイン語の動詞ドリル」2017 年 7 月 12 日刊、同著「極める！スペイン語接続法ドリル」2016 年 1 月 5 日刊と、同一著者による「基本」・「動詞」・「接続法」の本格的テキスト 3 冊で、スペイン語を正確に身に着けることができます。すべて白水社刊です。是非、ご挑戦を。

2018 年 7 月 31 日(火)

スマートシティ（AIシティ）とは何か

—会津若松で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 福島県会津若松市へは何をするために出掛けたのですか。

A : 公益社団法人経済同友会地方分権委員会（委員長、市川・住友林業社長）の委員として、アクセンチュア福島イノベーションセンター、会津大学、会津市役所を視察し、日本で最先端の「スマートシティ会津若松」を学ぶためです。

Q 2 : 「スマートシティ会津若松」とは何ですか。

A : (1) ICT（情報通信技術）などを活用して、地域産業の活性化を図りながら、安心して快適に生活できる「まちづくり」に取り組む事業の「総体」です。

(2) 会津若松市では、ICT や環境技術などを、健康や福祉、教育、防災、さらにはエネルギー、交通、環境といった生活を取り巻く様々な分野で活用し、将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことのできるまちづくりを進めています。

(3) こうした取り組みの総体が「スマートシティ会津若松」です。

*以上は、会津若松市の HP にある「スマートシティ」のコーナーからの引用です。

Q 3 : 会津若松市の「スマートシティ」の取り組みは、参考になるのですか。

A : (1) 試しに、先ほど引用させていただいた会津若松市の HP をご覧になってください。また、HP 中にある「スマートシティ」のコーナーをご一読ください。

(2) そのうえで、今お住いの市や町、区などの HP を検索し、比較してみてください。全国の自治体もかなり ICT の活用の取り組みをしています、会津若松市の取り組みは群を抜いています。

(3) 情報工学の単科大学、会津大学の HP も是非ご覧ください。使い勝手のよさは抜群です。

Q 4 : 「スマートシティ会津若松」の誕生のきっかけは何だと、林さんは考えますか。

A : (1) 2011年3月11日の東日本大震災の復興支援として、世界的な ICT コミュニケーション企業である「アクセンチュア」が、日本で東京に次ぐ第二番目のイノベーションセンターを会津若松市に開設したことです。アクセンチュアが情報工学の単科大学である「会津大学」や「会津若松市」と、「産学官連携」を不退転の決意で進めた結果と、私は考えます。

(2) 会津大学は、1 学年 240 名の公立大学ですが、知る人ぞ知る、コンピューターサイエンス領域では日本最大の単科大学です。大学発ベンチャーは 27 社、外国人教員比率は 40 %、英語教育も知る人ぞ知るの公立大学です。

(3) これに加え、室井照平会津若松市長と行政スタッフの強力なリーダーシップ、市民の理解のもとで、総務省認定第一号の「スマートシティ」が誕生しました。

Q 5 : 会津若松市の「スマートシティ」から学ぶことはありますか。

A : (1) 大いにあります。「スマートシティ」として会津若松市が取り組んでいる課題は、全国各地と共通するものが大半だからです。

(2) 「スマートシティ」としてベンチマーク、参考にすべきは、エストニアや韓国がありますが、国内では「会津若松」が群を抜いています。

(3) 最先端の ICT コミュニケーションの企業、最先端の情報工学の単科大学、やる気のある行政トップ。これに、「福島復興」という「社会的使命」が加わり、2011 年から 7 年間という短期間で「スマートシティ会津若松」の誕生に至ったと、私は確信します。

Q 6 : 学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の皆様にお伝えすることがありますか。

A : 会津若松市や会津大学の HP を十分に研究し、自分たちが取り組むべきことは何かを、お考えになることをお勧めいたします。エストニアや韓国から学ぶことも、山ほどあります。

Q 7 : 最後に一言どうぞ。

A : 今月も、皆様にお読みになれば参考になる本を、僭越ながら、少し多めですが、何冊かご紹介させていただきます。

(1) 1 冊目は、共同通信社原発事故取材班・高橋秀樹編著「全電源喪失の記憶：証言・福島第 1 原発 日本の命運を賭けた 5 日間」新潮文庫、新潮社 2018 年 3 月 1 日刊です。吉田昌郎・所長はじめ、福島第一原発を担ってきた皆様が、どのような思いでどのような行動をなさったかを知ることは、国民として大切と考えます。リスクマネジメント、リーダーシップのテキストとしても第一級の書と確信します。

(2) 2 冊目は、先月号でもご紹介したマイケル・E・ポーター著「(新版)競争戦略論 I・II」ダイヤモンド社 2018 年 7 月 18 日刊です。1999 年 6 月 3 日刊の旧版から 19 年、内容を一新し、論文の入れ替えをした、競争戦略論の第一人者ポーター先生の最新版です。ノートを取りながら旧版と併読することをお勧めすることを失念しましたので、改めてご紹介させていただきます。

(3) 3 冊目は、波頭亮著「AI と BI はいかに人間を変えるのか」幻冬舎 2018 年 2 月 28 日刊です。ノルウェーやフィンランド、カナダなどで実験が始まった BI の導入はまだまだかもしませんが、AI は待ったなしです。本書の前半の AI の歴史とこれからの説明は、とても参考になります。

* BI(ベーシック・インカム)とは「すべての国民に対して、最低限の生活を保証するだけの一定の金銭を無条件に、無制限に給する」制度です。

(4) 4 冊目は、山本龍彦編著「AI と憲法」日本経済新聞出版社 8 月 23 日刊です。AI の具体的な展開が、憲法や基本的人権とのかかわりでよく理解できる好著です。

- (5) 5冊目は、寺西重雄著「日本型資本主義—その精神の源」中公新書、中央公論新社 2018年 8月 25日刊です。日本資本主義の淵源を鎌倉時代における仏教の革新にまで遡り、「求道的職業行動に基づく独自の資本主義精神」があったとする指摘は、マックスウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を思い起こさせます。
- (6) 6冊目は、ena 学院長・河端真一著「3万人を教えてわかった 頭のいい子は『習慣』で育つ」ダイヤモンド社 2018年 7月 18日刊です。最強にして最高の教育論・テキスト・必読書として、すべての学習塾、予備校、私立学校の先生にお勧めいたします。
- (7) 7冊目は、牛久市の最年少の教育委員会委員長を務めた後、早稲田大学大学院教育学研究科で教鞭をおとりの永堀宏美著「保護者トラブルを生まない学校経営を“保護者の目線”で考えました」教育開発研究所 2018年 8月 6日刊です。実務と研究に裏打ちされた、活用度の高い1冊です。学習塾や予備校にも役立ちます。
- (8) 8冊目は、アレックス・ライトマン著「ブレット・キング 拡張の世紀—テクノロジーによる破壊と創造」東洋経済新報社 2018年 4月 12日刊です。モバイルバンキング、フィンテックの世界的権威が ICT によるイノベーションの現在と将来を語ります。(3)(4)とともにご一読ください。
- (9) 今月の最後の 9冊目は、内閣官房参与で総理大臣の外交スピーチライターの谷口智彦著「安倍晋三の真実」悟空出版 2018年 7月 30日刊です。谷口氏とは、ダボス会議の東アジア版 World Economic Forum in East Asia で何回もご一緒し、日本の国益を考えて発言する姿に感銘を受けていました。本音の安倍首相論です。
- 是非、手に取ってご一読ください。

2018年 8月 31日 (金) 11時 12分

『未踏』事業の活用を

—公益社団法人経済同友会、先進技術による新事業創造委員会、
非IT企業によるデータサイエンティスト（DS）育成分科会で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q1：「未踏」事業とは何ですか。

A：「未踏」事業とは、経済産業省所管である独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が主催し実施している「突出したIT人材の発掘と育成」を目的として、ITを活用して世の中を変えていくような日本の天才的なクリエイターを発掘し育てるための、国のIT戦略に基づく国家的事業です。

Q2：林さんは、この事業をどこで知ったのですか。

A：（1）幹事をつとめる公益社団法人経済同友会の、先進技術による新事業創造委員会の中に作られた非IT企業によるデータサイエンティスト（DS）育成分科会での活動の中で知りました。

（2）2000年11月に始まって以来、これまでに、落合陽一氏はじめ1600名の、AIやデータサイエンスの分野で国際的に活躍する若手研究者やベンチャー企業者が、綺羅星のように数多く生まれ育ってきました。

（3）この「未踏」事業のOB／OGを中心に「未踏社団」を設立し、創造的人材を多角的に支援、業界横断的なネットワークを構築。人材発掘、想像的キャリア支援、インフラ整備など、ITを活用してのイノベーションを支援しています。

Q3：そもそもデータサイエンティスト（DS）とは何ですか。

A：（1）統計的手法を身に着け、情報科学的な知見と技術を自社の事業課題の解決のために活用することで、イノベーションや生産性向上をもたらし、企業の持続的成長を導く人材です。

（2）これからのAIやIoTの時代に、最も必要とされる人材です。

（3）とりわけ、グローバル化が遅れ、また、労働生産性の低い、非IT企業にはなくてはならない人材です。

Q4：子どもたちの教育の中にも取り入れたいですね。

A：（1）その通りです。関心のある子どもたちには「未踏ジュニア」が超おすすすめです。

（2）「未踏ジュニア」事業では、独創的なアイデアを持つ小中高生クリエイターに対し、

各界で活躍する PM（プログラマネジャー）や未踏事業の OB / OG など専門家による指導、また、最大 50 万円の開発援助を行います。

(3) 必要に応じて、開発場所及び工作機械の援助を行っています。また、未踏ジュニアスーパークリエイターに認定されると、翌年以降に IPA 未踏事業に応募する際に、条件付きで一次審査が免除されます。慶應義塾大学 SFC の AO 入試出願資格の認定など、入試にも有利です。

Q 5 : 情報セキュリティに関して、未踏の取り組みはありますか。

A : (1) 「セキュリティ・キャンプ」があります。

(2) 「セキュリティ・キャンプ」は、若年層に対して情報セキュリティに関する高度な技術教育を施すことで、次代を担う情報セキュリティ人材を発掘・育成する事業です。

(3) この事業の参加者には、情報化社会の中で複雑多様化する脅威に対処することのできる人材として、社会の様々な場面で活躍することが期待されています。

(4) 「セキュリティキャンプ」には、8月中旬頃に、3泊4日、全額無料で、22歳未満の学生を対象に合宿形式で開催される「全国大会」があります。

(5) また、25歳以下の学生を対象にした2日間の「地方大会」や、学生以外の一般を対象にした「一般講座」もあります。

Q 6 : サイバーセキュリティは、どの規模の企業でも大切ですよね。

A : (1) 企業をはじめとするすべての社会インフラに、驚異的なダメージを与えるサイバー攻撃のリスクが激増しています。

(2) この「未踏」事業を管轄する情報処理推進機構（IPA）では、事業の大きな柱として「産業サイバーセキュリティセンター」を設立。

(3) 「中核人材育成プログラム」で、本格的な産業サイバーセキュリティ人材の育成を行っています。

(4) 同時に、短期プログラムとして

①「国際トレーニング」

②「業界別トレーニング」

③「サイバーセキュリティトップセミナー」

④「戦略マネジメント系セミナー」

などを行っております。

(5) 修了者コミュニティ（OB会）も発足。連携強化を図っています。

Q 7 : 学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A : (1) 非 IT 企業としてデジタル変革をどう推し進めるか、その中心的な推進者としての「デジタルサイエンティスト（DS）」をどう確保し、育成したらよいか。

(2) この議論の前提として、そもそも、自らの組織に本当に必要なデータとは何か。また、情報を、いつ、誰が、どこで、何のために、どのように収集したらよいかを 5W1H で考える必要があります。

- (3) 是非、「未踏」事業、「未踏ジュニア」、「セキュリティキャンプ」、「サイバーセキュリティ中核人材育成プログラム」など、IPAのHPをじっくりご覧になり、積極活用をご検討ください。

Q8：最後に一言どうぞ。

- A：(1) お気付きとは思いますが、今月号の話題は、先月ご紹介させていただいた「スマートシティとは何か—会津若松市で考える—」の続きです。会津大学、会津若松市のHPで、スマートシティの最先端の動きをご確認ください。
- (2) 今月も、お読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します。1冊目は、「未踏」OBの西尾泰和著「エンジニアの知的生産術—効率的に学び、整理し、アウトプットする」技術評論社2018年8月24日刊です。エンジニアの方でなくても、十分に理解できます。渡部昇一先生の名著「知的生産の方法」と併読すると、本著の素晴らしさがわかります。
- (3) 2冊目は、元東京大学総長の佐々木毅著「シリーズ時代を語る 知の創造を糧として」さきがけ新書、秋田魁新報社2017年6月19日刊です。佐々木先生の簡単な伝記です。「よみがえる古代思想、『哲学と政治』講義Ⅰ」「宗教と権力の政治、『哲学と政治』講義Ⅱ」「プラトンの呪縛」「マキアヴェッリと『君主論』」（すべて講談社学術文庫）など、先生の著作を理解するのに役に立ちます。大家の著作を理解するには、たとえ簡単なものでも、その先生のお書きになった伝記を読むのが役に立ちます。
- (4) 3冊目は、T.S.エリオット作「キャッツ—ポッサムおじさんの猫と付き合う法」ちくま文庫、筑摩書房1995年12月4日刊です。原著「Old Possum's Book of Practical Cats」と合わせて読むと、ミュージカル「キャッツ」がますます好きになります。
- (5) 読書の秋には、シェイクスピアが一番。4冊目のおすすめは、シェイクスピア、河合祥一郎訳「新訳 から騒ぎ」角川文庫、角川書店2015年7月25日刊です。キャッツやシェイクスピアを読む第一歩は、登場人物のページを絶えず見ながら読み進めることです。今年の秋から冬には、一作でも多くのシェイクスピアの作品に是非ご挑戦を。

2018年9月23日（日）記

*開倫塾塾長

*公益社団法人経済同友会幹事